

代表質問 自民党こまつ 宮西 健吉(みやにしけんきち) 議員

一括質問

## こまつ芸術劇場うららが 團十郎芸術劇場うららに



動画でチェック

◆「小松を明るく、にぎやかに」令和5年度当初予算編成について

◆実質公債費比率、将来負担比率、経常収支比率の推移は。

◆令和4年度見込みで、実質公債費比率11.9%、将来負担比率120%前後と改善見込み。経常収支比率は90%を少し超える見込み。

◆市債残高、税収、主要3基金の推移は。

◆市債残高は確実に改善傾向にある。令和5年度の税収はコロナ禍前までの水準に回復、基金残高は18億円の見込み。

◆当初の予算編成と、これらの数値から読み取れるものは何か。前市政と宮橋市政の違いは何か。

◆今必要と確信する政策への確に予算配分を行い、財政健全化にも注力し財政指標は改善の傾向を続けている。歴代市長の市勢発展のかじ取りを引き継ぎ、その時々々の課題克服はもとより、本市と本市の未来が明るくにぎやかになるよう取り組んでまいりたい。

### ◆災害(水害)対策について

◆梯川の早期改修工事計画は。排水機場の能力アップ計画は。

◆梯川水系緊急治水対策プロジェクトを、国の事業として343億円をかけて約10年間で実施予定。九龍橋排水機場はポンプ増設により排水能力を増強、その他の排水機場は浸水シミュレーションを実施し検討していく。

◆田んぼを活用した遊水地の構想は。

◆旧今江瀧の活用について、県によると、前川の治水対策は安全に流下でき、遊水池は

計画上位位置づけられていない。

### ◆国のこども家庭庁設置について

◆本市の組織対応は。また、保育所、幼稚園、こども園の働き方改革について。

◆こども家庭庁を設置し、人員も強化する。配置基準の緩和については、国の動向を注視し安定財源を整理しながら検討していきたい。

### ◆教育問題について

◆幼児教育の取組について。

◆保育教諭等の計画的採用と研修等の人材育成により、質の高い教育・保育を実践していく。

◆不登校問題の取組について。

◆今後とも相談・支援体制とステップアップの充実を図っていく。

◆部活動の在り方改革について。

◆先行実施する2種目を参考に、順次地域移行の環境を整えていく。

### ◆新幹線対策について

◆1Rいしかわ鉄道の充実対策は。また、二次交通について。

◆運行本数や在来線駅周辺の環境整備等の充実に向けていきたい。また、小松駅周辺の機能拡充や二次交通の充実も図り、さらにシェアサイクルを導入する。

### ◆観光産業の促進について



◆歌舞伎のまちをどう生かすか。

◆今後は團十郎丈のお力を借り、魅力をさらに磨き上げ、全国発信していく。

◆石の文化、北前船寄港地をどう生かすか。

◆日本遺産発信によりシビックプライドの向上につなげ、持続可能な地域活性化に取り組む。

### ◆都市計画道路及び産業団地について

◆都市計画道路の今後の取組は。また、産業団地の次の構想は。

◆交通量等を総合的に評価し、次期整備路線を選定していきたい。産業団地の候補地3か所については、本格調査等行い決定する。

### ◆福祉の充実について

◆障がい者スポーツの促進について。

◆小松サン・アビリティーズを活動拠点とし機能の充実強化を図る。

### ◆学校給食無償化について

◆予算の内訳は。

◆持続可能な行財政運営に取り組みつつ国の交付金等に頼らず財源を確保し、予算案を編成できた。

代表質問 こまつ未来 一木 攻(ふたぎおさむ) 議員

一括質問

## 小松空港周辺のまちづくり



動画で  
チェック

### ◆空港ビルの建て替えを契機としたまちづくりを

**Q** 安宅新産業団地の完成や北國銀行のアリーナ構想、エアターミナルビルの老朽化等、空港西側地区は相当程度変化があると考えられる。幅広く総合的に考慮して、施設間の行き来がスムーズになり、楽しくなる街にしたい。

**A** 空港周辺を重点ゾーンとして総合的にまちづくりを行うことは非常に重要であると捉えており、交流拠点化と都市機能の集積、産業創出など地方創生のモデルとなるよう国等とも連携して進めていきたい。

### ◆航空プラザについて

**Q** 航空博物館として、実機展示を含めた学習機能のさらなる充実を。

**A** 航空プラザは飛行機の歴史や仕組みを学び、航空文化を体感できる日本海側唯一の施設である。実機展示については、県有施設であることから県との協力体制が不可欠であり自衛隊等提供者との情報共有を引き続き行い充実できるように努力していきたい。また、これまで同様に家族連れでも訪れやすい施設の環境整備を継続し、子どもが飛行機に興味を持つきっかけとなるよう、常に魅力ある施設としてクオリティを向上させ、空港周辺のにぎわい創出に寄与していきたい。

### ◆観光交流センターの管理運営について

**Q** 人・もの・情報の拠点、本物の歴史、文化を発信「Komatsu 9(ナイン)」の管理運営について。

**A** ㈱こまつ賑わいセンターが施設全体の統括管理を行い、こまつ観光物産ネットワークを含む3社が観光案内やカフェ、ワークラウンジを行う事業者として入る予定で、様々なプロモーションやイベント等を行う予定である。こまつ顔として新たな交流拠点となるよう努めていきたい。

### ◆こまつドームの活用について

**Q** 民間への売却の話があるが、既存利用者への対応、特に冬期の活用の確保を。

**A** 野球やグラウンドゴルフ、テニスなど市民のスポーツ活動を中心に利用されており、特に冬期は全天候型の施設としてスポーツ大会等も開催されている。利用者へは、まず既存施設の機能拡充を中心に検討すべきと考えており、今後部活動の地域移行に伴う各中学校のグラウンド開放を検討する必要がある。スポーツ大会等の開催に必要な施設や機能については近隣市とも連携し広域的な利用を推進する必要がある。

と考えている。

### ◆道路整備について

**Q** 市道今江国道1号線ー国道305号線間の道路整備を。

**A** 今江国道1号線は延長400m区間の整備が完了し、国道305号まで残り延長450m区間が未整備となっており、JRを横断するため鉄道管理者と協議を行っていく必要があるほか、将来のまちづくり構想や効果を調査・検討し、総合的に事業化の判断をしていきたい。

### ◆重要土地等調査法について

**Q** 小松基地は今回の指定から外れたが、今から対応について考えておくべき。

**A** 基地や原子力関係など重要施設の機能を阻害する土地の利用を防ぐために制定された法律であり、現時点では小松基地は区域指定されていないが、国防上、安全保障上、大変重要な取組であると認識しており、小松基地が所在する市として、法に定められた国の事務の遂行に協力していきたい。





竹田 良平(ただりょうへい)議員

一括質問

動画でチェック

## 少子化対策への取組、障がい者雇用及び活動推進



### ◆少子化対策への取組

**Q** 小松市として、少子化対策についてどのような施策を推し進めていくのか。

**A** 令和5年度はこども家庭部を設置し、子供政策の一元的推進体制を構築する。施策としては、プレコンセプションケアの啓発、おなかの赤ちゃん給付金、生まれた赤ちゃん給付金、小中学校の給食無償化など。出産前から切れ目のない支援体制を構築し、子ども達の子育て体制を整備する。



**Q** 小松市や石川県に愛着を持つ「若い世代」のための施策について、今後どのようなことを重点として進めていくか。

**A** 就労機会創出のため、オフィス系企業の誘致やスタートアップ企業等操業支援への取組、若い世代への良好な宅地を提供するための民間開発の促進など。若い世代の社会的ニーズを勘案し、子育て政策の実現に向け取り組む。

### ◆障がい者雇用及び活動推進

**Q** すべての人がお互いを尊重し合い、個性と能力を発揮し合う社会の実現に向けた施策を積極的に進めていく必要がある。

**A** 「小松市役所障がい者活躍推進について」は令和2年から5年間の計画期間となっているが、この間の取組の中で特徴的な点は、

**A** 職場への定着のため、能力や適性を踏まえ業務を洗い出すなど、働きやすい環境の整備、各部署のニーズと職務のマッチングなど。また、業務の繁忙時期に合わせ、期間を区切り各職場に派遣し、ニーズと職務をマッチングしている。



岡山 晃宏(おかやまあきひろ)議員

一括質問

動画でチェック

## 地域連携型の活動支援について



### ◆地域活動への支援について

**Q** 高齢者の活動の場であるいきいきサロンやゆったりサロンなどの活動への支援について、備品購入など必要に応じて補助は出来ないか。

**A** サロンへは、消耗品の購入や活動費用の一部を補助しており、積極的に活動に参加してもらえよう内容の充実等に努めたい。

**Q** まちづくりには住民への理解・浸透など長い時間を要する。まちづくりコーディネーターを育成し、長い目でサポートする体制が必要では。

**A** 対話による地域づくりを進めるスキルを養成する講座を開催し、地域でリーダーとして活躍できる人材を育成していきたい。

**Q** 小松市ではこども食堂が開催されている。

**A** 支援が必要なすべての方へ食材や物資を届けたいと思う団体もある。地域連携型の支援とはどのような連携か。

**A** 町内会、地区社会福祉協議会、地域協議会等との連携を想定

しており、困っている子どもや子育て家庭に必要な支援につなげ、地域と共に子どもの成長を見守る地域づくりを目指している。

### ◆誰もが楽しめるまちづくりへ

**Q** 芦城公園は砂利の歩道が多く障がいをお持ちの方にとって歩きづらい。未来型図書館建設予定地が芦城公園周辺に決まった事を踏まえ、バリアフリー化して誰もが楽しめる公園を目指しては。

**A** 令和5年度に主要園路をバリアフリー化整備する予定で、未来型図書館基本構想とも連携して進めていきたい。

**Q** 公共施設には障がい者用駐車場が整備されているが、天候に左右されず安心して乗り降りできる屋根付きの駐車場にはどうか。

**A** 市役所駐車場において整備中であり、今後とも誰もが利用しやすい駐車場の充実に向けて進めていきたい。



東 浩一(ひがしこういち)議員

一括質問

動画でチェック

## 災害に強いまちづくりと企業誘致



◆田んぼダム・ニホンザル出沒・誘致企業とマッチング・ふるさと納税

Q スマート田んぼダムなど取組について

A 県では、田んぼダムの実施に向け令和5年度にシミュレーションによる効果算定や試験田での営農への影響等を検証すると聞いている。検証結果を基に、農業者の負担や営農に影響が生じない範囲で適切に田んぼダムに取り組んでいけるよう、県や農業関係者と検討してまいりたい。

Q ニホンザルの出沒への対策は

A ロケット花火での追い払い等の効果は限定的であり、令和5年度以降石川県ニホンザル管理計画に基づき対策を講じていく予定。春までに猟友会と調整を進めていくほか、住民による追い払いや捕獲体制の確立、講習会開催、新規捕獲檻導入を進め、新たな群れ追跡にGPS発信機をつけ生息調査を実施予定。

Q 企業誘致と地元企業のマッチングについて

A 本市では地元企業とのマッチングができる情報発信ツールを整備していないが、日本商工会議所には全国の会員企業の概要を検索できるサイトがあり、全国の事例等を調べ、有効なものができるといえる。あれば検討してまいりたい。

Q 空き家補助金見直しについて

A 本市の空き家の現状は、令和3年度2,011件あり、老朽で危険な空き家として確認できたのは45件。来年度から、解体補助限度額を30万円から50万円に拡大し、また空き家バンクに登録した物件の改修補助は最大50万円となっている。

Q ふるさと納税と返礼品について

A ふるさと納税は、寄附者の意向に応じて6つの使い道から選ぶことができる。返礼品には日本酒や米、九谷焼や家具など約400種類あり、新幹線開業の相乗効果も見据え、新たな小松オリジナル商品の開発に今後も努めていきたい。



南藤 陽一(なんとうよういち)議員

一括質問

動画でチェック

## 「北陸新幹線 小松開業に向けて」



◆「シェアサイクル」について

Q 南部地区における拠点ポートと簡易ポートの考え方は。

A 南部地区のポートは、栗津駅から半径5キロ圏内の主要観光地7か所などに配置。滝ヶ原は、圏外だが、日本遺産などあり、政策的な観点から簡易ポートを配置。

Q シェアサイクルの利便性と回遊性を求めるため地域公共交通との連携が必要不可欠と考えるが。

A 導入により、駅、空港、バス、タクシー等とシームレスな移動が可能となり、公共交通の拡充と利便性の向上が期待される。

Q シェアサイクルの導入に対し、安全対策をどのように考えているか。

A 利用者には、利用料の中で保険に加入いただいている。将来的に道路への自転車専用レーンの整備も検討していく。

Q シェアサイクルを、サイクルツーリズムやヘルスツーリズムなどの企画で利用促進を図っては

いかがか。

A こまつ観光物産ネットワークも今年度からヘルスツーリズム事業に取り組んでいく。将来的に

広域的なツーリズムに発展をさせていく。

◆ナイトタイムエコノミーについて

Q 市民向けナイトタイムエコノミーの具体的な事業内容は。

A 北陸新幹線小松駅開業プレイベントの一環とし、光のナイトウォーク等ナイトタイムエコノミーを開催する。令和5年度は拡大させプロジェクトシンポジウム等実施を検討している。

Q 新幹線開業後も観光客向けにナイトタイムエコノミーの継続を要望するが。

A 事業実施効果を検証し、今後どのような形にしていけるかを考え開業後も継続していく。

Q ナイトタイムエコノミーの推進にあたっては、安心・安全で健全な夜の小松の環境づくりが

必要不可欠と考えるが。

A 市の防犯協会や小松警察署と情報連携を密に行い、観光客や市民が安心して夜のイベントを楽しむよう、今後も安全確保に全力で努めてまいりたい。